奇跡的な回復、愛のちから

豊受会員の体験発表

食、種の問題など核心的な情報が伝わったと語る由井代表

（4面からつづき）

飲む機会を得た娘さん。体がとても小さく、同級生にからかわれ、いつも泣いていたそうですが、豊受御古菌を飲むようになってから、食べる量が増え、身体そのものがたくましくなり、1年間で身長が10㎝、体重が5㎏増加し、その年齢の平均的身長・体重にまでなったのだそうです。

「由井先生から、豊受御古菌には元に戻す神なる力があり、御古菌様そのものが神様であることを教えていただいた」そうです。

この発表の最後にこのように語った。

「ホメオパシーで難病が治った方はたくさんいらっしゃいます。でも、治らなくても、たとえ失ったものが戻って来なくても、一見不幸に思える状態で、光を見出して前向きに生きられるようになる、それも奇跡であり、回復なのだと気づきました。私は、苦しみを、不幸を、必要としていたのだと思ったら、身に起こる全てに感謝しかありませんでした。そして由井先生がいつも魂の救済として私たちにその大切さを教えてくださっているものだと思いました」と。

【豊受会員体験発表】「豊受御古菌の神様に教えて頂いた事」

中学生の時、激しいイジメに合ってから生きる事に悲観し何度も自殺を図り、その後も様々な局面でイジメや就職の妨害を受けたりしながら絶望の中、生きてきたと語る女性。

「生きている時間のすべてが苦しく、拷問のようだった」と言う。生きてきて、パニック障害や脳動脈瘤、過食による糖尿病、無月経となり、若年性認知機能障害・記憶障害となったという。頭の中に霧がかかったようになり意識がはっきりせず、文章や人の言うことが理解できなくなり、強迫性障害も発症した。

そのような時に、由井寅子先生のホメオパシー健康相談会に入り、由井寅子先生の勧めにより豊受御古菌をとると、「お腹が温かくなって、心も温かくなってきたことを感じ、情緒が安定して落ち着いてきました。どっしりと大地に足がつくような、自分の根っこがしっかり安定するような感覚」になり、「これまで感じた事のないような、愛という感情が湧き出て、生きている事への喜びと感謝があらゆる負の感情を溶かしていった」と涙を抑えながら語った。

そして、豊受御古菌を飲み始めた数日後、「心に愛を植え付けてもらい、気が付いたら憎しみへの執着が離れ、穏やかな心境となり、過去のイジメなど全く気にならなくなり、恨み憎んでいたイジメ相手を完全に許せるようになった」。

そして、ご自身が記憶障害などの病気になった本当の原因は、「愛を持っていなかった自分自身が激しい怒りと恨みを抱き、みずから毒を作り出しながら生きていた」からなのだと気付いたのだという。

神様との絆が回復

由井先生は、「豊受御古菌には取り戻す力があり、生まれる前の魂の目的を思い出させることが出来る、豊受御古菌そのものが神様でいらっしゃる」とおっしゃったそうです。それを実感しておられ、豊受御古菌を摂ることで、「生まれながらに誰もが持っている神様との絆が回復して、魂が本来の場所に戻れるような感覚があり、愛で魂を満たしてくれた」と感じられたのです。

その神様からの愛に恥じないように生きたいと思えた時から、認知機能障害が治りはじめ、頭がすっきりして、日常の当たり前の喜びが戻り、就職にも希望が湧いてきたそうです。さらに、精神安定剤の量も、1日最高38錠から今は3錠にまで減り、無月経も改善し、相談会のレメディーの作用も以前より早く出るようになったという。

最後に「これからは周囲にいただいた愛を返せるように、精一杯の愛を抱いて生きていきたい」と力強く語った。

この後、パネルディスカッションが行われ、元農林水産大臣かつ弁護士の山田正彦さんは、米国のグリホサート訴訟で歴史的勝訴をした末期がんにおかされているジョンソンさんと面談した際の「一刻も早くグリホサートをやめてほしい」と日本人へのメッセージを紹介した。またこの訴訟を担当し、レイチェル・カーソンが告発したDDTの問題以来30年にわたり、モンサントと戦っているジョン・F・ケネディ・Jr弁護士とのエピソードを紹介し、歴史的勝訴の決め手はモンサントの内部文書であったと語った。また、日本でも輸入小麦などにグリホサートが含有されており、自身、国会議員含む28名が血液検査した結果、19名の血液からグリホサートが検出され日本でも体内汚染が進んでいる点を紹介した。

種は命、命の継続

種は命、命の継続ですので豊受自然農さんとも一緒に種の問題を頑張っていきたいと思いますと述べた。ワケンビーテック株式会社部長の山谷雅和さんは、消費者庁が野菜をサプリメントと同じ分類にしてしまい、多くの効果効能がある野菜のメリットが1種類しか云えなくした消費者庁の行政に物申している点を述べた。外科医師の酒向猛さんは、由井会長の健康相談の面接を見ていて、由井会長が愛にあふれていると感じたと述べ、千島学説提唱の故千島先生がウイルス状の分子や細菌のような小さなものでも愛によって固まって次の段階へいくと言っておられた話などを紹介した。豊受クリニック院長の髙野弘之さんは、子どもたちを守るためにも草の根運動で声をあげていく人が増えるといい方向に風向きを変えることができると訴えた。女優かつホメオパスでもある田村翔子さんは、農薬の使用で海外では日本の野菜は気をつけた方がいいよといわれる悲しい時代になったと述べ、養蜂を手伝う中でわかった日本のミツバチの9割がウイルスに冒され結構死んでいる状況を報告した。

由井寅子大会長は、私たち農家も無関心ではなく賢くなって情報を研鑽する。山田先生など専門家の先生方にも頑張っていただく。しかし将来遺伝子組み換えやゲノム食品を食べなければならなくなるのは消費者なので国民1人1人が種の問題を知り、種とりを行う農業を守っていかなければならないと訴えた。

そして最後に由井寅子大会長が閉会の挨拶があり、「今回のシンポジウムは、コロナが転じて、会場が変更になり、このようにライブ配信も可能なシステムを準備できて、1000名以上の方々が無料で参加できるようになりました。そして多くの皆様に食の問題や種の問題など核心的な情報が伝わったことは良かったと思います。ある視点から見れば、まさに「禍を転じて福と為す」ということわざのようです。来年も第10回のシンポジウムを開催しますので、またぜひ来年も参加していただきたい。農業は辛さもあるが、喜びもいっぱいあります。自然とともに生きることはとても素晴らしいことです。皆様、この2日間参加していただき誠にありがとうございます。心から感謝いたします」という言葉で幕を閉じた。

終了後には映画『タネは誰のもの？種苗法改定で農家は？』の上映会が開催され、終了後山田正彦氏が上映挨拶した。

ゲノム編集に懸念

日本ではゲノム編集種子・食品を政府が安全とみなし、許可、届出、表示も必要なしで流通・栽培できるようになった点に触れ、多国籍企業が今年にでも、ゲノム編集した飼料米の栽培を日本で始めることに懸念を表明した。米の花粉は1・5㎞四方に拡散するため、もし栽培が実施されると日本はゲノム汚染地域として有機の米がつくれなくなり食べられなくなる点や、こういった動きに対し、今治市は遺伝子組み換え、ゲノム作物を市の許可をとらずにつくったら懲役という条例をつくったことを紹介した。これからの世代のために地方からでも声をあげて対抗していく必要性を訴え、またこの映画での勉強会開催を訴えた。

そして最後に由井寅子大会長が閉会の挨拶があり、「今回のシンポジウムは、コロナが転じて、会場が変更になり、このようにライブ配信も可能なシステムを準備できて、1000名以上の方々が無料で参加できるようになりました。そして多くの皆様に食の問題や種の問題など核心的な情報が伝わったことは良かったと思います。ある視点から見れば、まさに「禍を転じて福と為す」ということわざのようです。来年も第10回のシンポジウムを開催しますので、またぜひ来年も参加していただきたい。農業は辛さもあるが、喜びもいっぱいあります。自然とともに生きることはとても素晴らしいことです。皆様、この2日間参加していただき誠にありがとうございます。心から感謝いたします」という言葉で幕を閉じた。

有事・災害時にレトルト

自然農のリレー発表 洞爺農場での活動報告

日本豊受自然農リレー発表が行われた。

小林 且幸様（日本豊受自然農 静岡函南農場スタッフ）「自然栽培へ向けての土づくり～豊受御古菌における培養の取り組み」

約500種類の古くから土の中にいた土壌菌を天然の有機肥料として培養。菌に敬意を払いながら、雑菌、雑念を入れこまないように毎日作業をしているという。

御古菌を使用している植物と使用していない植物の生育の違いを実験し、結果をわかりやすく説明した。更に今現在も培養の試験を行っており、畑の土も菌たちが喜ぶような土づくりをしていきたいという今後の抱負も述べた。

宮沢 涼太様（日本豊受自然農 静岡函南農場スタッフ）「安心・安全 豊受の多品種野菜」

宮沢さんは豊受はなぜ多くの品種の野菜を栽培しているのかという事についてじゃがいも、玉ねぎを取り上げ解説した。

各品種の特徴を生かしたオススメ料理も紹介した。農薬不使用で栽培されている豊受の野菜を使用し、保存料など食品添加物や人口着色料を一切使わずに作られたレトルトは、普段の食事から有事、災害時の非常食として備えておくと安全な食事をとることができますと力強く語った。

小城原 紀子様（日本豊受自然農 静岡函南加工スタッフ）「静岡発！安心・安全な豊受商品」

小城原さんは農薬を使用せず栽培、収穫した野菜と、一般的な農家で栽培された野菜とを図を用いて比較し、わかりやすく解説した。

農業部が育てた野菜は加工部が保存料、防腐剤、食品添加物を一切使用することなく豊受レトルトへ加工している。その加工部の仕事も画像で紹介した。寅子代表から「法灯明、自灯明」の話を聞き、凡事徹底の姿勢、寅子先生の思い、愛情が豊受自然農にとっての法灯明であるということに気づいたと語った。

澤田 美史様（日本豊受自然農 北海道洞爺農場スタッフ）豊受自然林から「ハーブ蒸留水と精油を使った安心安全な生活用品」

北海道にある日本豊受自然農、洞爺農場スタッフの澤田さんから昨9月からの新事業である蒸留水と精油を使った安心安全な生活用品の開発、生産について動画も用いて発表した。

洞爺農場において農薬不使用で栽培しているハーブや自然林の蒸留、その蒸留で出来た精油と蒸留水をベースに、由井代表が考案された新商品の「菌は菌で愛する」のコンセプトの説明、体、心、環境に優しい安心安全な商品を皆さんにお届けするため、日々洞爺農場スタッフが力を合わせ取り組んでいる事をアピールした。

髙野 博明様（日本豊受自然農 北海道洞爺農場スタッフ）「エキネシア・チコリなど北の大地洞爺のハーブ栽培プロジェクト」

同じく洞爺農場スタッフの髙野さんは、北海道の洞爺農場の気候を生かし農薬不使用で栽培しているハーブのエキネシア、チコリはどのような特徴をもっているのかを説明。現在も乾燥ハーブなどの加工品になるハーブを栽培する農地を広げるため開墾作業が続いていると語った。